

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
生涯学習概論 Life-Long Learning		前期 月1	3～ 教育学部
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ ■ ■ 特定プログラムとの対応
Introduction to Life-Long Learning		bcxL	
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
大村 隆史	Lg	2	101085

■ ■ DP・提供部局

bcxL

■ ■ 授業形態

Lg

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

■ ■ 授業の概要

この授業では、学校にとどまらない学びの場として、家庭や地域における学びに焦点をあて、社会において人間が形成され、発達していくことについて理解を深めるような概念的な講義をおこないます。その際、教員による講義に加えて、受講者が自分自身の経験に引きつけて考え、生涯学習を身近なものとして考えるグループディスカッションの機会を作ります。

■ ■ 授業の目的

この授業を通じて、「生涯を通じた学習・教育とは何か」という問いについて探求するなかで、広い視野から学習・教育の本質について理解を深めることができます。その際、家庭・学校・地域における固有の教育機能について検討を行い、それぞれの連携・協力関係のありかたについて考えるなかで、社会で広く活躍する力と視点を養うことができます。

■ ■ 到達目標

1. 生涯学習について学ぶなかで、学習や教育の場が社会に広く存在していることを認識できる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。
2. 生涯学習社会を構成する家庭・学校・地域における教育の固有性について、比較・検討できる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。
3. 生涯学習に関する個別の事例について検討し、意義や課題について自分の考えを論じられる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。

■ ■ 成績評価の方法

各回ミニレポート20%、学習成果の提出30%、期末レポート50%で採点する。

■ ■ 成績評価の基準

成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。

秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。

優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。

良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。

可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。

不可(60点未満)到達目標を達成していない。

ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。

合格又は了 到達目標を達成している。

不合格 到達目標を達成していない。

■ ■ 授業計画並びに授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

Moodleに本授業のコースがあります。

履修登録者はコース内の指示に従って学習を進めてください。

第1回 オリエンテーション

シラバスの内容の確認をする。「生涯学習概論」という科目について解説し、到達目標等の共有を図る。

第2回 生涯学習とは何か

生涯学習に関する素朴なイメージを共有しつつ、政策動向からその特徴について考える。

第3回 社会教育を知って生涯学習を知ろう

生涯学習を理解するうえで重要な概念である「社会教育」について歴史的な視点から学習し、生涯学習との共通点と相違点について理解する。

第4回 公務としての社会教育

社会教育行政の仕事の目的と意義について、法的な観点から検討する。さらに、近年の法制度の変更等に伴う現場の変化と特徴を理解する。

第5回 社会教育の担い手はだれか

社会教育行政を推進する専門家として位置付けられている社会教育主事に焦点を当て、その職務と実際について、事例を通じて検討を行う。また、新たに導入された社会教育士の制度や民主的な社会教育行政の実施に向けて組織された社会教育委員の経緯と現状について解説し、その意義と課題について検討を行う。

第6回 社会教育施設の概要(公民館)

社会教育施設の概要を整理したうえで、公民館の歴史と展開を理解し、具体例の検討を通じて理解を深める。

第7回 社会教育施設の概要(図書館)

図書館の成立と機能を考察し、公共施設としての図書館の役割と課題について事例検討を通じて理解を深める。

第8回 社会教育施設の概要(博物館)

博物館の成立と機能を考察し、教育施設としての博物館がどのような課題を抱え、どのような取り組みを展開しているのかについて、事例を参照しながら理解を深める。

第9回 振り返り、学習成果の共有

授業カードや配布資料をもとに、前半部の「学び」を振り返る。その際、学び合いの関係づくりのプロセスの実践として、受講生同士で「学び」の共有も行う。

第10回 生涯学習と人間形成

あらゆる「教育」の場を改めて整理しながら、多様な人間形成の場を相対的に捉え、「人間形成」や「生涯学習」という言葉について理解を深める。

第11回 生涯学習と家庭教育

家庭を人間形成の場として捉え、その特徴と位置づけについて理解する。また、親の意識調査等のデータの考察を通じて、家庭教育に関する理解を深める。

第12回 生涯学習と学校教育

生涯学習政策における学校の位置づけ、教育委員会制度や学校統廃合を題材に、地域社会における学校の役割について理解を深める。

第13回 生涯学習と社会教育

生涯学習政策の導入によって従来の社会教育政策がどのように変容したか、行政レベルから実践現場レベルまでを広く概観し、理解を深める。

第14回 生涯学習社会における教育の場の相互の連携と体系化

これまでの学習内容を踏まえ、生涯学習社会を構成する多様な教育の場が相互に連携するために必要な方策や考え方について検討を行う。

第15回 振り返り、まとめ

【授業及び学習の方法】

授業は講義を中心としつつ、グループディスカッションを随時おこないます。
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によって授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

社会教育・生涯学習の実践や関連する取組は、日常生活のあらゆる場面に存在しています。新聞やニュースなど身近なメディアを通じて、関連しそうな取組に触れ、授業で学習した内容と関連付けて考察してみましょう。

教科書・参考書等

(教科書として以下の書籍を指定します。)

萩野亮吾、丹間康仁編著『地域教育経営論：学び続けられる地域社会のデザイン』大学教育出版、2022.10(価格2,420円)

【本書の使用方法について】

1. 最終レポートの作成にあたって、本書の内容を軸とした課題を課すことを予定しています。
2. 授業内容と以下の通りに関係しており、授業中に教科書との対応箇所をアナウンスしながら進めることを予定しています。

(目次)

第Ⅰ部 地域教育経営の見取り図

第1章 「地域教育経営」論の現代的可能性— 地域社会における「つながり」と「熟議」のデザイン —

第2章 日本における生涯学習政策の動向と課題

第3章 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の制度と実際

→第2、3、12回の講義内容と関わるものです。

第Ⅱ部 地域教育経営の課題と展開

第4章 地域教育経営としての学校統廃合— 持続可能な学校教育・社会教育体制の実現 —

第5章 地域教育経営を通じた地域文化の創造と継承

第6章 地域福祉との連携実践にみる地域教育経営の広がり

第7章 子どもの貧困問題と市民活動— アダチベースの取り組みを中心に —

→第10、11、12回の講義内容と関わるものです。

第Ⅲ部 地域教育経営の主体とパートナーシップ

第8章 地域づくりに果たす社会教育施設の役割

第9章 地方創生・地域づくりの政策と住民自治組織の役割

第10章 地域に貢献する大学 — 大学開放から地方創生へ —

第11章 非営利セクターによる社会課題の解決

→第5、6、7、8回の講義内容と関わるものです。

第Ⅳ部 地域教育経営のデザインと評価

第12章 コミュニティにおける対話と学習環境デザイン— 対話的学習実践にみるコミュニケーションの課題と戦略 —

第13章 住民主体で進める居場所のデザイン

第14章 住民主体のまちづくりのプロセスとデザイン

第15章 住民主体の活動の評価— 住民と地域のエンパワメントを評価する

→第4、13、14回の講義内容と関わるものです。

オフィスアワー

月曜日2時限目(研究交流棟6階地域人材共創センター大村研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業の内容についてよくわからなかった点や要望などがあれば、Moodle等を書いて下さい。
ここでの意見や考えは、授業中に全体へ共有することがあります。

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ メールアドレス

omura.takashi@kagawa-u.ac.jp

■ ■ 教員の実務経験との関連

■ ■ 予備項目7

■ ■ 予備項目8